

福

伝える

祉

み

つなげる

え

No. 395

7 月号  
2024年

ひびきあう

今日の表紙写真は、県社協職員より、紫陽花散策の様子をお届けします。

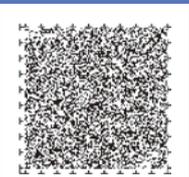


撮影地：かざはやの里

## contents

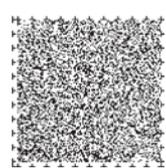
- 特集：令和5年度 三重県社会福祉協議会 事業報告・決算の概要・・・ 2
- 令和5年度 三重県社会福祉事業職員共済会事業報告 …………… 5
- 連載：新ウェルビーイングみえプラン…………… 6
- ありがとうメッセージ…………… 8

福祉みえでは、2～4ページの  
特集記事に uni-voice による  
音声コードを導入しています。



Uni-Voice音声コード

ふれあいネットワーク



令和5年度三重県社会福祉協議会の事業を、本会の中長期計画である地域福祉活動支援計画・強化発展計画「新ウエルビーイングみえプラン」に則り、基本目標ごとの主な事業について報告します。

### 基本目標 1

#### 地域共生の基盤づくり

#### 推進項目

#### ① 支え合う地域づくりの支援

##### 事業評価

市町社協の総務・経理担当職員を対象とした意見交換の場を設けるこ

とで、組織基盤の強化を図りました。

子ども居場所支援に関しては、目標数の10倍近い件数の寄付をつなぐことができました。また、視察研修やインターンシップをとおして具体的な活動体験の場を設けました。

##### 今後の課題

市町社協への支援では、地域福祉活動推進部門だけでなく、法人経営部門の充実を図ることが求められます。

子どもの居場所支援では、新たに子どもの居場所作りを始める団体や、今後継続していけるためのネットワーク作りや、人材育成の支援、寄付等につなげるための企業理解の支援が求められます。

#### ② 多様な主体との協働

##### 事業評価

三重県民生委員制度創設100周年の節目の年にあたり、インターンシップ事業、100周年記念フォーラムの開催など、情報発信を目的とした取組みを進めました。

東海北陸保育研究大会「三重大会」を開催し、保育関係者がともに学ぶ機会を創出しました。

社会福祉法人の公益的な取組みにおいて、事務の効率化のためICTの活用に取り組み、一部の事業ではオンライン申請ができる仕組みを構築しました。

JA組織との交流会の場を設けたことにより今後、各地域で具体的な取組みにつなげることが期待されます。

##### 今後の課題

社会福祉法人の公益的な取組みでは、財源のひっ迫により、昨年度に

引き続き一部の事業を休止しました。あらためて県内の社会福祉法人への働きかけについて、方法の見直し改善含めて検討し、強化していく必要があります。

#### ③ 総合的な相談支援機能の強化

##### 事業評価

日常生活自立支援事業では、県内に発生した不適正事例を踏まえ、専門員を対象に弁護士による注意すべき事項等を共有する場を設けました。

生活福祉資金貸付事業では、全市町社協を巡回訪問することで、課題の共有を踏めることができました。

##### 今後の課題

日常生活自立支援事業においては、財政的な面でも本事業の継続には課題があります。

生活福祉資金貸付事業においても、本則貸付の債権管理事務費の確保が必要です。また、不動産担保型生活資金の借受人の一層の高齢化や当該不動産の老朽化、売却困難物件への対応等への対応が急務です。

## 基本目標 2

持続可能な社会福祉の仕組みづくり

### 推進項目

#### ① 福祉人材の確保・就労支援

##### 事業評価

三重県福祉人材センターでは合同就職説明会をはじめ就職イベントを実施することで、福祉業界への就職を後押ししました。公共職業安定所との新たな連携スキームによりに情報を共有し、支援の幅を広げました。

介護員養成研修資格取得支援事業では、事前説明会でプログラムの目的を伝えることで、受講生全員の修了につながりました。

介護未経験者への一体的支援事業では、修了者アンケートで31.4%が介護職を就職先の1つとして考えるようになったという結果が得られました。

##### 今後の課題

三重県福祉人材センターを利用する方が減少傾向にあるため、一層広報に注力することが必要です。

#### ② 福祉人材の定着支援と育成

##### 事業評価

働きやすい介護職場応援制度構築事業では、「みえ働きやすい介護職場取組宣言事業所」の取組PR動画に加え、メッセージ動画リーフレットも作成しました。また就職イベントでは、求職者の目に留まりやすいよう、宣言事業所にのぼり旗やロゴマークを設置しました。

みえ福祉・介護フェア2023では、新たな試みとしてNPO法人Ubdobeと体験型イベントを行い、親子を中心に500人を超える参加がありました。

福祉施設職員向けの研修では、対面によるグループワークを行ったことで意見交換できて参考になった、やる気のある方々に触発されたという意見も多くみられました。

##### 今後の課題

働きやすい介護職場応援制度構築事業では、チラシや取組紹介集、ホームページや取組PR動画などを活用し、周知する必要があります。

福祉施設職員向けの研修では、オンラインと集合形式のいずれかの方法のメリットも検討した上で、研修の内容に適切な研修方法を選択する必要があります。

#### ③ 質の高い福祉サービスに向けた支援

##### 事業評価

種別協議会事務局として行う研修事業では、LIVE配信や録画映像の配信を取り入れ、多くの方に参加・視聴できるようにしました。

地域密着型サービス外部評価事業については、本会からの働きかけに

より評価調査員養成研修事業を県から受託し、調査員を新たに養成し、増員することができました。

##### 今後の課題

社会的養護関係施設第三者評価について、年によっては件数が集中するため、事務局体制の強化の検討が必要です。

## 基本目標 3

災害時に備えた支援活動の充実

### 推進項目

#### ① 災害時に備えたネットワークの構築・基盤強化

##### 事業評価

三重県災害派遣福祉チーム(DWAT)登録員を対象に、福祉的トリアージ

をテーマに、実践的な対面による訓



Uni-Voice音声コード

練を実施しました。また、三重県総合防災訓練に参画し、災害派遣をイメージした訓練・振り返りの場としました。

災害時のボランティア活動支援に関しては、みえ災害ボランティア支援センター幹事団体として、内閣府「官民連携による被災者支援体制構築モデル事業」を活用し県域ネットワーク整備に参画しました。

ITを活用した災害ボランティアセンター運営支援のモデル事業では、3市社協をモデル実施社協として指定しました。

令和6年能登半島地震では、特に被害の大きかった石川県の被災地支援を、DWAAT登録員や市町社協をはじめとする関係団体と共に取り組みました。なお、三重県DWAATは今回の災害が初めての派遣となりました。避難所等で要配慮者支援に取り組み、地元の地域資源につなげることを目標に活動しました。

今後の課題

被災地支援での経験を、研修や訓練等に活かし、引き続き体制整備を進めていく必要があります。また、お互いの「顔の見える関係づくり」を進め、資質向上や各種情報提供を行うなど、連携を密にしていくことが重要です。

浸透しているITツールを運用できる人材を確保、育成するとともに、活用できるような取り組みが必要となっています。

令和6年能登半島地震で被害の大きかった奥能登地方については、地理的要因もあって、道路や上下水道といったインフラの復旧が遅れていることから支援にも影響がおよび、復旧復興まで息の長い支援が必要となっています。

本会は引き続き、被災地支援に取り組むとともに、支援内容を共有、精査し、今後の活動に活かします。

## 令和5年度 決算の概要

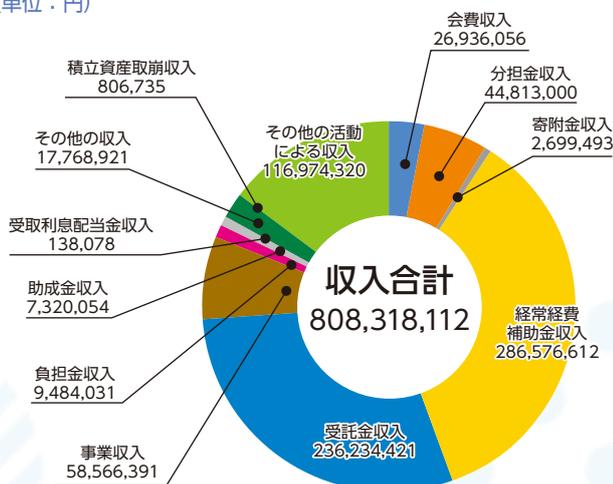
### 法人単位資金収支計算書（一部抜粋）

本会財政は、会費収入、関係団体からの分担金収入、県補助金収入、県受託金収入、全社協からの負担金収入、研修会等参加費収入からの繰入金収入が主となっています。

令和5年度の一般会計決算は、収入の合計が約8億8百万円、支出合計が8億4千万円で、当期資金収支差額合計はマイナス約3千4百万円となりました。

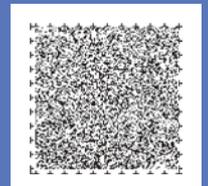
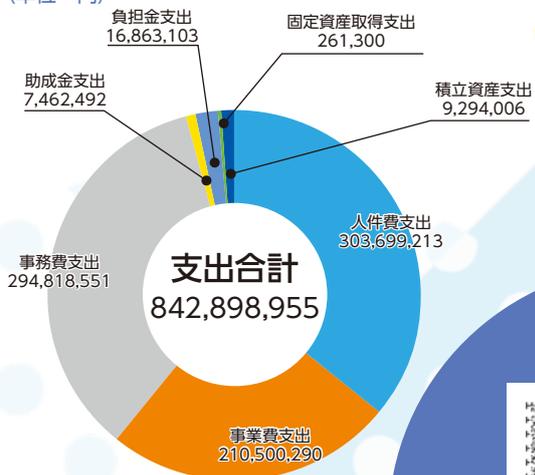
#### 収入

(単位：円)



#### 支出

(単位：円)



Uni-Voice音声コード

(一財) 三重県社会福祉事業職員共済会は、県内の民間社会福祉事業に従事する職員の皆さんが安心して働くことができるよう、退職手当金や見舞金の給付を行っています。

また、会員の皆さんの福利厚生充実を図るため、福利厚生センターの各種事業を実施しています。

### 退職手当金等給付事業

令和5年度 会員異動状況

入会者数： 1,972名

退会者数： 1,618名

総会員数： 15,422名 (令和6年3月31日現在)

※総会員数には事務手続き上、反映されていない退職者を含みます。

#### 退職給付金支給件数/金額

普通退職	1,092件	1,094,682,496円
死亡退職	6件	11,202,403円
返還金(会員掛金分)	640件	33,587,304円
返還金(事業主及び会員掛金分)	4件	3,115,434円
合計	1,742件	1,142,587,637円

#### 見舞金等の給付件数/金額

死亡弔慰金	6件	300,000円
災害見舞金	-件	-円
合計	6件	300,000円

### 福利厚生センター(ソウェルクラブ)事業

福利厚生センター加入状況(令和5年10月1日現在)

129法人 / 6,962名

#### 1 会員交流事業

概ね計画どおりに実施しました。

- 交流イベント 新規2企画を含む計7企画で実施しました。6企画で、定員超過の申込みがあり、福利厚生企画・情報会議委員による抽選にて参加者を決定しました。
- チケット頒布 県内および近隣県(愛知県)を中心に21企画を実施しました。ただし、21企画のうち2企画が台風等の影響により中止となりました。  
※中止のうち1企画は、その後に振替公演の実施あり。

#### 2 地方委託講習会

東海北陸ブロックの会員を対象にレクリエーションや広報等のテーマで講習会を実施しています。令和5年度は三重県レクリエーション協会 伊藤 準康氏に講師を依頼し、レクリエーションリーダー講座を実施しました。【参加者13名(うち県内12名、県外1名)】

### 財産目録

資産の部	科目		金額
	流動資産	預金	
未収金			172,320,248円
固定資産	基本財産		3,000,000円
	退職者管理システム等		1,937,215円
	信託財産		15,429,755,461円
資産合計			16,039,216,375円

負債の部	科目		金額
	流動負債	前受金	
未払金			503,258円
固定負債	引当金		16,035,713,117円
負債合計			16,036,216,375円
差引正味財産			3,000,000円

### 財産状況

#### 1 退職手当金必要額(令和6年3月末現在)

要退職給付総額：16,524百万円 総資産額：16,039百万円

税引後資産額：16,039百万円 充足率：97.0%

#### 2 退職手当積立金(令和5年3月末現在)

支払備金+数理債務：16,711百万円 退職給付引当金：14,472百万円 積立率：86.6%

※令和5年度の積立率は、決算額を基に算定するため令和6年10月頃に確定します。



今年、中長期計画である「新ウェルビーイングみえプラン」第1期の最終年にあたります。この連載では、7つの推進項目ごとに振り返り、第2期への展望をお示しします。

## 基本目標① 地域共生の基盤づくり

## 推進項目② 多様な主体との協働

### 主な事業・取組み

この項目では、従来からつながりのある民生委員・児童委員や社会福祉法人・事業所との連携に関する取り組みに加え、ボランティア活動を推進し、それを支える仕組みをつくるボランティアセンター事業の強化に取り組んでいます。

また、幅広い関係機関とつながることで、主体的な地域福祉活動が展開されるよう様々な気づきや学びの場を設けています。

### 目標の達成度（令和2～5年度を振り返って）

- 従来から三重県民生委員児童委員協議会の事務局運営を担い、令和5年度には三重県とも協力しながら、三重県における民生委員制度創設100周年記念事業に協働で取り組みました。民生委員・児童委員については、様々な課題がありますが、活動しやすい環境づくりのため、事業等の見直しにも取り組んでいます。
- 三重県知事と種別協議会代表者との懇談会や政党要望を行う際、福祉現場の課題や要望等を取りまとめ、政策の提言活動の支援を行いました。
- ボランティアセンター事業として取り組んでいる「ボランタリーフォーラム」をきっかけに、企業や団体とも新たにつながりができてきています。また、連携協定を締結しているコープみえに加え、JAみえとも意見交換の場を設け、地域での取組みが広がりがつつあります。

### 今後の展望

- 各種別協議会の主体性を尊重し、協議会の活性化及び会員の資質向上が求められています。特に、本会が事務局機能を担っている各種別協議会の組織運営の強化を図っていきます。
- これまでの福祉分野のつながりだけでは、地域の福祉活動を維持し、発展させていくことが難しくなっています。多様な主体とのつながりの場づくり、活動の支援を通して、地域福祉活動の促進を図っていきます。

日本国内でのボランティア活動中のケガや賠償責任を補償

# ボランティア活動保険



新型コロナウイルス感染症の感染症法上の分類が5類感染症に変更されたことに伴い、「特定感染症重点プラン」を廃止して2つのプランとします。

**保険金額・年間保険料 (1名あたり)** 団体割引20%適用済 / 過去の損害率による割増適用

プラン		基本プラン	天災・地震補償プラン	
ケガの補償	死亡保険金	1,040万円		
	後遺障害保険金	1,040万円(限度額)		
	入院保険金日額	6,500円		
	手術保険金	入院中の手術	65,000円	
		外来の手術	32,500円	
	通院保険金日額	4,000円		
	特定感染症	補償開始日から補償 <sup>(*)</sup>		
賠償責任の補償	地震・噴火・津波による死傷	×	○	
	賠償責任保険金 (対人・対物共通)	5億円(限度額)		
年間保険料		350円	500円	

商品パンフレットは  
こちらから



(ふくしの保険)  
ホームページ

\*特定感染症についても10日間の免責期間がなくなり、補償開始日から補償対象となります。  
なお、令和5年5月8日以降、新型コロナウイルス感染症は補償対象外となりました。

## <重要>

- ◆ 基本プランでは地震・噴火・津波に起因する死傷は補償されません。
- ◆ 年度途中でご加入される場合も上記の保険料となります。
- ◆ 中途脱退による保険料の返金はありません。
- ◆ 途中でボランティアの入替や、ご加入プランの変更はできません。
- ◆ ご加入は、お1人につきいずれかのプラン1口のみとなります。

**ボランティア行事用保険** (傷害保険、国内旅行傷害保険特約付傷害保険、賠償責任保険)

**送迎サービス補償** (傷害保険)

**福祉サービス総合補償**  
(傷害保険、賠償責任保険、約定履行費用保険(オプション))

● このご案内は概要を説明したものです。詳細は、「ボランティア活動保険パンフレット」にてご確認ください。●

団体契約者 **社会福祉法人 全国社会福祉協議会**

取扱代理店 **株式会社 福祉保険サービス**

〈引受幹事〉損害保険ジャパン株式会社 医療・福祉開発部 第二課

TEL: 03 (3349) 5137

受付時間: 平日の9:00~17:00 (土日・祝日、年末年始を除きます。)

この保険は、全国社会福祉協議会が損害保険会社と一括して締結する団体契約です。

〒100-0013 東京都千代田区霞が関3丁目3番2号 新霞が関ビル17F

TEL: 03 (3581) 4667

受付時間: 平日の9:30~17:30 (土日・祝日、年末年始を除きます。)



# ありがとうメッセージ

～ 心も一緒に届いています ～

社会福祉法人 伊賀市社会福祉協議会

令和4年度実施事業

## 「ラジオ体操で交流」支援事業

この事業は令和4年度から新たに実施しました。

コロナ禍で身体を動かす頻度が少なくなった方が多くなりましたが、屋外でも実施できるため、3密を避けることができるラジオ体操で身体を動かしたことで、介護・認知症予防、健康増進等につながりました。今後も伊賀市内でラジオ体操を普及していきます。

募金にご協力いただき、ありがとうございました。



社会福祉法人 木曾岬町社会福祉協議会

令和4年度実施事業

## 福祉協力校助成事業

木曾岬町社会福祉協議会では、町内の中学校へ福祉協力校助成金を交付し、福祉学習を推進しています。

木曾岬町立木曾岬中学校は、「郷土をきれいに」をテーマに、小学校6年生と中学生が連携して、「学校環境デー清掃活動」を行いました。今後も郷土をきれいにする活動に取組んでいきます。

募金にご協力いただき、ありがとうございました。



発行人 井村 正勝

編集人 横田 浩一・広報委員会

発行所 社会福祉法人 三重県社会福祉協議会

〒514-8552 三重県津市桜橋2丁目131

TEL : 059-227-5145 FAX : 059-227-6618

URL : <https://www.miewel-1.com/> E-mail : [info@miewel.or.jp](mailto:info@miewel.or.jp)

編集協力 株式会社アイリック

2024年7月号(通巻395号) 令和6年7月発行

「福祉みえ」は三重県社協のホームページでもご覧になれます。また、広報に関するご意見・ご感想は、E-mailにて受け付けております。